

## 中国・上海

月曜掲載

グローバルにいがた @世界の街



片桐 里香さん

長岡市出身

中国人の友人に「あなたは何族？」と聞かれ、戸惑いました。日本にいと民族を意識する機会はほとんどありませんが、中国では身分証明書に自分の民族が記載されるほど、生活の中に民族意識が根付いています。

中国には56の民族があります。全人口の約92%が漢民族で、漢民族以外の55の民族は全人口の約8%に過ぎず、少数民族と呼ばれています。少数民族の中でも人口が多いのはチワン族、満州族、回族、ミャオ族、ウイグル族、チベット族などです。

## 多民族は文化の宝庫

少数民族が暮らす地域を訪ねると、その違いに驚かされます。例えば言語。それぞれの民族では異なる言語が使われています。そのため、道路標識にもそれぞれの民族が使っている言語が書かれています。



一般的な道路標識は、漢字の下に中国語の読み方「ピンイン」が書かれています。しかし、ナシ族が多く住む雲南省の街では、これらの表記の下に「トンパ文字」というナシ族が使っている象形文字（トンパ文字は現在使用されている唯一の象形文字といわれています）が書かれています。

音声言語も民族ごとに異なるため、言葉が通じないという事態が起きます。では、異なる民族同士ではコミュニケーションが取れないのでしょうか。そんなことはありません。中国では「普通話」という共通語が使われています。中国では50年ほど前から、学校の授業は普通話で行われています。高齢者の中には、普通話が苦手という人もいますが、簡単な日常会話や単語でコミュニケーション

を取ることができません。同じ民族の若者が通訳をして伝えている姿も見られます。一方で、自分たちの民族の言葉を話せない子どもが増えているという話も耳にします。

豊かな文化の宝庫である中国。それは、それぞれの民族が大切にしてきた文化が今も生き続け、人々の生活に根付いているからだと思います。互いの違いを理解し、それぞれの文化を尊重し合うことで、豊かで素晴らしい文化が次の世代にも受け継がれていってほしいと願っています。

(片桐さんは1971年生まれ。2021年に上海日本人学校虹橋校に赴任しました)

海外で暮らす本県関係者が現地の様子を紹介します。ウェブサイトに新潟日報デジタルプラスにも掲載。執筆希望も受け付けています。

